資料２

令和７年度第２回小高小学校・小高中学校保護者懇談会
意見交換の内容（要約版）

１. 参加人数

	１日目	２日目	合計
会　場	１１人（　９世帯）	１２人（　９世帯）	２３人（１８世帯）
オンライン	３人（　３世帯）	３人（　３世帯）	６人（　６世帯）
合　計	１４人（１２世帯）	１５人（１２世帯）	**２９人（２４世帯）**

※合計２４世帯中１世帯は重複世帯。
※オンラインは１人を１世帯としてカウント
※対象世帯の１７％程が出席（重複世帯を除く）

２. 質疑応答・意見交換

○：参加者の意見・質問等　⇒：事務局側の回答

（１）小高小学校・小高中学校のあり方についての検討プロセスの見直しについて

※「参考資料１」にて検討プロセスの変更について当日説明。

① 検討の全体方針とプロセスについて

○・追加資料１別紙の「これまでの進め方」のＡからＦは見直して変えるということか。

⇒・ＡからＦの検討プロセスを見直し、以下の手順で進める。
保護者から意見を収集する→意見を基に協議会で方針を検討する→まとまった方針を皆様に提案する。

○・「見直した検討プロセス」の１から５は、「これまでの進め方」のＡ～Ｆ及び「具体的な進め方」ＳＴＥＰ１～７のどこに該当するのか。

⇒・「見直した検討プロセス」に４が、「これまでの進め方」のＡ～Ｃに、「具体的な進め方」のＳＴＥＰ３～６に該当する。

○・「見直した検討プロセス」５の基本方針とは、どのようなものか。

⇒・基本方針については、今後の小高小学校・中学校のあり方については、ま

ず皆様からご意見を伺い、そのご意見を踏まえて協議会で検討し、どのような形で今後のあり方を進めていくかをまとめたものを基本方針という形で作成するイメージで考えている。

⇒・令和７年９月に保護者懇談会を実施した際には、令和３年４月の小高区４小学校再編に向けた方向性を令和２年５月に決定しており、その方向性に基づき、義務教育学校が前提となっていたが、現在いる保護者の方からすれば、自分たちの意見が入っていないように感じられたと思う。

・今いる保護者の方が義務教育学校を望んでいる前提で話をスタートしたところが間違いであったことから、スタートの地点で、保護者の方が望んでいるものをお伺いしたいというのが、プロセスの見直しとなっている。

〇・保護者が義務教育学校の小中一貫で一つにするというのをやらなくていいですよとなった場合、市としては白紙に戻すことはできるということの前提で話を進めて良いのか。

⇒・教育委員会としては、９年間一貫した施設で学べる「義務教育学校」が、子どもたちにとってより良い環境であるという方向性を持っているが、保護者が同じ方向を向いてもらえるかが大切だと思っている。

・ただし、その方向性がなくなるわけではなく、小中が同じ学区になる場合については、義務教育学校や小中一貫を可能な限り入れていきたいとの方向性は持ってはいるものの、保護者が施設一体型義務教育学校以外の環境を望む場合は、その形で進めていきたいと思っており、白紙に戻すのかというよりも、スタート地点に一旦戻させていただき、保護者からご意見を伺うところからスタートしたい。

〇・検討プロセスの大まかな時間軸の流れはどのように考えているか。

⇒・時間軸については、ステップ２の協議会での分析の検討の内容、ステップ３の保護者へのフィードバックで意見交換をさせていただき、それを何回行うかによって変わるが、現在は皆様との意見交換を重要視することを考えており、ステップ７までどのような形で進めるかということは現在調整している。

〇・ステップ７後の学校のスタートは、いつ頃を目指しているのか。

⇒・そもそもの方向性をどうするかという段階なので、新しいものがいつ開校となるかは、その時の状況によると思っている。

○・**検討プロセスについて、「ありたい姿」からやり方を決めるには多くの検討が必要だが、段階を踏んで考えないと、様々な意見が混在してしまい、意見を集約した結果が、保護者の考えと異なるものになる恐れがある。これを避けるため、最低でも以下の「三つの段階」を踏むべきと考える。**

①「目指すべき学校」像について皆で合意する。
②今の学校の状態について共通認識を持つ。
③その上で、具体的なやり方の話をする。

このプロセスには、保護者だけでなく、地域で育った方や若い人、行政、先生方などの様々な意見を全部テーブルに並べて議論する必要があるが、現状、そのためには回数がすごく足りないのと感じており、もう少し段階を踏んで進めてほしい。

②検討協議会の検討体制について

○・**検討準備協議会は一体どんな人が入っていて、どういうプロセスで選ばれていて、どういう協議をしようと思っている会なのか。**

⇒・メンバーについては合計で１１名であり、小高区行政区長連合会の会長と副会長の３名、小高小学校・小高中学校のＰＴＡの会長・副会長の２名ずつ、おだか認定こども園の保護者会の会長と副会長、小高小学校・小高中学校の校長で構成されている。

・今後の協議については、皆様から意見を収集し、そちらを踏まえ協議会にて小高小学校・小高中学校のあり方を検討させていただき、その結果を保護者の皆様にフィードバックさせていただく形を考えている。

○・**検討協議会にＰＴＡの役員を入れて、あて職で議論、意見集約されるとのことだが、ＰＴＡ側で、どういうふうに意見集約するのか示されてない。どのように意見が集約されていくのかをきちんと示していただかないと、どういうタイミングでどういう意見をするかの判断に迷うので、教育委員会側でどう対応されるか示してもらえると助かる。**

⇒・会議での意見集約は現状、各団体に任せているが、自分たちの声が反映されるか不安に思う声もあるかと思う。

・今後は、保護者懇談会や意識調査で直接意見を聞くとともに、ＰＴＡの会長・副会長に意見を取りまとめていただくことも大切だと考えている。

・具体的なやり方については、役員改選の時期も考慮し、今後話し合いなが

ら決めていくための宿題とさせてほしい。

○・**何年先かわからないことだとすれば、こども園の保護者の方の意見というのがすごく大事になってくると思う。２人では不足と思うので追加を検討してほしい。**

⇒・もし新しい学校との方向性になれば、校舎の改修や学校名、校歌等の検討に３年くらいかかると考えている。

・また、協議会では、保護者懇談会で協議したい内容や実施したいアンケートの内容等についてご意見をいただいている。

・保護者の皆様の声についてはアンケートや、このような話し合いの場で受け止めさせていただき、協議会で一緒に考えさせていただいている。

③保護者からの意見集約の方法について

○・**小高区においては、移住してきた保護者が増えていることから、従来の地元の方々が主なこれまでの統廃合の合意形成とは質が変化していると思う。そのため、地域の意思決定層と実際に子育てをする保護者の間に温度差があることを懸念している。**

また、家庭内ごとに集約する形での意見聴取では、回答の属性が偏るという問題がある。

市内で生まれ育った方と、今いる保護者が見えている課題や希望は異なっているという前提の下で、意見を集約する工夫が必要と考える。

⇒・小高ならではの色々な方の視点が入ってくるため、そういった意見を大切にしたいと思っている。

・ご意見いただいた部分は宿題とさせていただき、今後、オンラインや懇談会など、ご意見が集まりやすい方法を考えさせてもらいたい。

④ 懇談会の座組について

○・**座組については、意見交換会であるなら、事務局と保護者が対面する形でなく、皆で輪になる配置の方が良い。**

⇒・座席の配置については、オンライン配信の関係がありこのような配置となっている。配置のスタイルについては今後検討したい。

⑤部活動について

○・**中学校になると人数が少ないことから、部活動等の選択肢が少ないのが問題点と感じている。**

・**中学校になって選択肢が増え、自分でやりたい部活動ができるような環境になることを望んでいる。**

⇒・やりたいことがやれる環境をいかに整えていくかは、教育委員会としても大切にしていきたい。

・こういう方向性であれば出来るのでは、というようなアイデアを保護者の方からいただきながら、一緒に考えていきたい。

⑥学校（小中一貫教育）の現状について

○・**今回のような場を設けるということは、小学校中学校の教育に関して、今の小高の教育に関して何か疑問があるということで話し合いをする必要があることから設けているのか。**

⇒・教育委員会としては、どうすればより良くできるかと思っており、現在取り組んでいただいている小中一貫教育の良い所をさらに伸ばし、市内に広げていくといった視点をいただきたいと思っている。

・人数が少ない、選択肢が限られる等、課題はあるのではと思っており、保護者が考えている課題等を伺い、それをさらに良くするための方向性を伺いたく、懇談会という場としている。

○・**具体的に小中一貫教育を行っている内容を教えて欲しい。**

⇒・外国語等の中学校から小学校への乗り入れや、音楽の先生が中学校に行って授業する等の相互の授業を行っていただいてることや、合同での体験活動に力を入れて実施していただいている。

○・**体験活動等は、小中一貫としてではなく、行事を一緒にやっているということだけではないのか。**

⇒・「未来へつなげ！小高の学び」ということで小学校中学校一つの目標に向かって教育目標も【知】・【徳】・【体】同じような方向を向いて取り組んでいる。

・行事の他にも、合同での避難訓練や運動会等の活動を通し、縦割り集団の中で豊かな心を育ませていただいている。

○・<u>運動会については合同で行っていないのではないか。</u>

⇒・令和６年度までは合同で実施していたが、令和７年度については、小学校の運動会が６月上旬であり、中体連の時期と重なったことで、小学校の運動会に参加しないとの流れとなっており、来年度以降も同じ日程だとすると、難しいと思っている。

（２）保護者意識調査結果から見える保護者が考える今後の学校のあり方について

【知：学びの充実】
【テーマ：外国語教育】

① 義務教育を終えた時点で望む英語力について

○・英語が話せるようになれば良いが、話せないとしても聞き取りができ、単語くらいは返せるようになれば良いと思う。
・ただ、現在の取り組みの内容で、子どもの英語が成長したという実感は湧いていない。

○・英語をペラペラにしたいわけではないが、高校受験や大学で抵抗がないくらいにしておきたい。

○・将来本格的に英語を勉強したくなったときに、外国でも通用する発音が学べるように、自分で取得できるような土台だけは早いうちに作っておきたいと思っている。

② 現在の英語教育に関する評価とご意見について

○・令和７年度に英語弁論大会で賞を取った生徒がいたが、令和６年度までに外国語教育に力を入れていた積み重ねの結果だと思っている。
・令和６年度は外部講師の方が中学校に出向いてきて発音の練習をしていただいていたが、令和７年度はそのような指導やＴＧＧの研修もなくなり、果たして外国語教育に力を入れているのか実感が湧かない状況なので、こうした指導は続けてほしいと思っている。
⇒・仰る通り、今年突然学力が上がったというわけではなく、小学校から続けてきた成果が繋がっているのだと思う。今いただいた話は真摯に受け止めたい。

○・こども園と小学校のフォニックス授業はとても良いと思っている。
・ただ、英語教育ばかりでなく、何でも諦めずやってみる、他者に相談してみる力があれば、やってみたいことがあればやるのではと思っており、やはりこの場で話をするのが腑に落ちないところがある。

○・子どもが学校に毎日楽しく通って、英語を楽しく発音し、好きと言ってくれている。こういうところを学校で教えていただけているのはありがたく、今後も続けてほしい。

○・えいご発音あそびの講座では、親と一緒にやることが大事と伺っており、発音あそびのやり方を保護者に共有してもらえれば家でできるので、そのような機会を設けてほしい。

○・こども園で英語教育のプログラムを取り組んでもらっているが、小学校・中学校では先生の異動があるため、先生個人の意欲や努力の問題ではなく、仕組みとして語学教育を地域で底上げをしていくことに関しての壁にぶつかっていってると感じている。
・これまで赴任してきた先生が努力して吸収してきたやり方には限界があると感じており、時数等の学校教育の課題もある中で、具体的に仕組みを改善しないと、学校だけでは難しいと思う。

○・学校の中だけでやるのは難しいと自分も感じているが、学校の特色づくりは必ずしも授業の中でやる必要はないと思っており、例えば、放課後児童クラブを活用して英語教育をプラスアルファで行うような仕組みを作ってもらえれば、先生方の負担を増やさずに、特色を作っていくことができるのではないかと思う。

○・「小高ならでは」といったときに、社会と連携できないかと思っている。例えば、小高ストアに、子どもの教育の一環として英語で商品名を書いておく等すれば、子どもだけでなく、買い物に行った親世代もともに学べるという付加価値がついてくるのではないかと思う。
そうした取り組みにより、魅力を感じた転入者の増加や町の活性化等も期待できる。

○・高校生にプログラミングさせてＱＲコードを読んだら、発音してくれる仕組みはどうか。
⇒そうしたアイデアはとても良いと思う。そういうものを今後も小高でやっていくためにはコミュニティスクールにすべきなのだと思っている。

【知：学びの充実】
【テーマ：探究・プログラミング学習】

① プログラミング教育の意義と今後の在り方について

○・外国語教育は重要ではあるが、外国語教育に偏りすぎると、学んだことを活かせる仕事が地元になく、子どもたちが将来戻ってくる選択肢を失う懸念がある。そこで、ＧＩＧＡスクール構想を話させていただいている。
・義務教育課程でＩＣＴ教育を取り入れることで、災害時等でも学べる環境が整えられる。
・また、高度なＩＣＴスキルや語学力を身につけることで、将来地元で起業する等、子どもたちのキャリアの選択肢が広がる。併せて、郷土愛についても育んでほしい。

○・もし義務教育学校を立ち上げるとするならば、小高ならではの特色がある、小高だからこそ学べる義務教育学校を作ってほしいと思う。
・それが実現すれば、小高に通いたいという子どもが出てきて、移住者も増えるのではないかと思う。
⇒・どこにでもあるような学校を作ろうとは思っておらず、小高ならではの学校にしたいと考えている。

○・今後社会の大半のプログラムをＡＩが書いてくれるようになっても、今のＡＩ技術では、コードが正しいかどうかの判断は人間がする必要があるというのが限界値になっており、プログラムを理解できるということの需要は小さくなっていかないと考えている。
・プログラミングについては、苦手意識を持っている子もいるが、プログラミングは世の中にとってインフラになっていくため、子どもたちをなるべく取りこぼさないように、プログラミングという概念の必要性を教えてあげる必要があると思っている。
・現状、プログラミングを教えるときは、ロボットを使うことがあるが、日常生活でやってる行動を自動化する、生活を便利にするといったプログラム、カリキュラムとか増えると面白いと思っている。
・また、小高ならではの教育として、中学生や高校生になったら、お店の何かを改善するみたいなプログラムを書いてみるというように、地域課題の解決と結びつけると、自分で考えて行動する探究にも繋がってくると思う。

② 探究学習における生徒の興味関心の引き出し方と外部連携について

○・既に一部の高校生の間では、ＡＩとの対話やシミュレーション、３Ｄプリンターの改造など、探究学習そのものみたいなことができており、かなり高度なことを高校生がこなしているという現状がある。そうした高校生は、物事に対する興味があり、それを深堀りしていく中で勉強している。

・大切なのは高度なこと教えることではなく、興味を持つものの入口がたくさんあることだと思う。

・ただ、プログラミングや探究学習といった、既存のパッケージに引っ張られるのではなく、中学生高校生がやってみたいことを応援する仕組みをどう作るかという観点を持つ必要があると思う。

○・子どもたちが自分たちの興味のあることを見つけて探究するということを、やり慣れていないと感じている。

・先程あった興味の選択肢を増やすというのはその通りだと思っており、そのためには、社会や人との接点を増やしていく必要があると感じている。小高ではそれができると思っているし、それが実現できれば、他の地域の学校プロジェクトにも負けない特色のある学校ができると感じている。

・そのためにどのような人を呼ぶかというのは非常に難しいと思っている。

【体：健やかな成長】
【テーマ：体を動かす機会の確保】

① 部活動の他中学校との連携について

○・部活動について、他中学校と連携した活動の強化を検討いただきたい。例えば、男女比が偏っていたり、人数が少なかったりしたりすることで実施できない部活動について、市内の近しい環境にある中学校と連携しながら活動ができないかと思っている。

② 登下校の方法について

○・集団登下校について、町中だけでもできないかと考えたことがある。例えば、地元の行政区と連携しながら、見守り体制を組むことで、仮に毎日ではなくても、集団登下校ができる可能性があるのではないか。

・そうすれば、結構な距離を歩くことになり、体力をつけることに繋がってくるのではないか。

○・遠方の人を含めた集団登校については、１ヶ所に集合してもらい、そこから全員で歩くという形で可能だと思っている。そうすれば、体力がつくほか、年下の子をお世話するといった、異年齢の交流による学びにも繋がる。

・震災以降、小高には治安の悪さがあり、送り迎えをしているところではあるが、集団登校ができれば、下の子の面倒を見ながら歩くという勉強にもなるので、学校、認定こども園含めて議論してもらいたい。

・それによって、リアルな人と人との繋がりを持つことができる。多感な時期にこれを経験しておかないと、将来進学したときや、社会に出たときに打たれ弱い人間になってしまうと思う。

・そのため、今からでも、人間の基礎力ともいえる人対人やコミュニティについて、教育の１つに入れてほしい。

○・自分が中学生の頃は自転車通学をしていたが、今はどうなのか。もししてる子がいないのであれば自転車通学をすることも良いと思う。

⇒・１人たまに自転車で通学している子はいる。また、今は通学距離の制限等もなくなってきている。

③ 放課後の過ごし方について

○郡山市では当時放課後の児童クラブがなく、友達と校庭で遊んだり、山や川で遊んだりという時間があったが、今はそういう放課後に自然と体を動かしていた時間がなくなっており、それをすごく懸念している。

○中学年、高学年で自転車を使えるようになったとき、自転車で登下校して、放課後遊びに行くというような、放課後の時間を充実できるようになると良いと思っている。

○放課後子どもを学童に預けているが、その時間の充実を図っていただきたい。震災以降、治安が悪いという感覚があり、子どもだけで遊ばせることに不安がある。
大人の見守りがある中で、放課後の時間を有効活用してもらえればとてもありがたい。

④ 体験・自然学習について

○可能であれば、郊外の方へ行って体験や自然学習できれば、体力もつくし、

自然の良さを生かすことができる。みらい農業学校等とも連携して何かできたら良い。

【その他】

① 意見交換会の進め方について

○・現在のこども園や小学校ではどちらも良い教育をしてもらっている実感があり感謝している。これは先生方が取り組んでくれていることであり、この場で話す必要はないと思っている。

・先程あった、中学校に進学した際に部活動の選択肢が少なくなるということや、私自身が感じている、子どもに特性がある際にどこまで見てあげられるかという心配や、施設の問題等、それぞれが不安に思っていることや、義務教育学校に対する意見等をざっくばらんに話ができたら良いと思うが、ここでは外国語教育について話さなければならないのか。

○・この話が次に繋がるのか、最初の通り白紙に戻るのかに繋がるなら議論するが、その点はどうなのか。

⇒・今回については、今の取り組みで継続してほしいことや、さらに充実してほしいということのご意見をいただき、保護者の希望を実現するためにどういう学校のあり方が望ましいのかについては、次の段階で話ができればと思っている。

○・日々安心してここが自分の居場所だと思うことができ、ここで大きくなるという自身が持てる、そういう場所を作りたいと思っており、この場で話せれば嬉しい。

○・子どもが未就学児１人だが、小学校、中学校での取り組みが耳に入ってきておらず、どうなってほしいかと言われても答えようがないので、やっていることについて教えて欲しい。

○・未就学児のみの保護者だと小学校、中学校の情報は入ってこないと思うし、逆に中学生のみだと、未就学児、小学校で何をやっているのか、そこの共有が図られていないと思うので学年差を考慮した情報共有をしてもらえればと思う。

⇒小高小学校の取り組み等について林校長から説明

⇒小高中学校の取り組み等について小林校長から説明。
⇒市の英語教育について、加藤課長から説明

② 学校のあり方検討のプロセスについて

○・**学校のあり方の協議は２段階になっていくものと思っている。まず第１段階が、校舎を一体化し、より一貫した教育ができるから進めてはどうかという保護者への提案及び議論があり、それが行われた後、より良くしていくための議論が入ってくると思っている。今回のは第２段階の議論になっているのではないか。**

⇒・当初は一緒にすること前提で議論させていただいたが、そこで保護者とのギャップがあったということで、現状の取り組みを共通理解し、それを円滑に進めるためにどういう教育環境が良いかを話したいと思っている。

○・**この教育環境とすることで、施設が一体の方が良いという方向に行くのか、先に施設を一体としてから教育環境の話をすべきなのかがわからないので、そちらを先に決めてほしい。**

○・**決めるのはまだ早いと思っている。今の小高小学校、小高中学校の取り組みを聞き、小中学校の先生の乗り入れや、縦割り活動は大事だと思うが、体力面や体格等で小学校中学校は大きな差がある点が心配に感じている。**

・**教育委員会の考えとして、より良い教育のため、というのがあると思うが、施設の老朽化や費用面等の実情の懸念点があれば共有してほしい。**

・**そういうものを知った上で議論させてもらえればと思うが、そういった面はいかがか。**

⇒・小高小学校、小高中学校の校舎の建築年数は、ともに校舎の耐用年数である８０年を下回っており、今すぐどちらの校舎が問題だから統合するということはない。

○・**統合することにより学校の管理費が減り、その費用を別の何かに充ててより良い教育ができるのか、それともそのまま分けてやっていた方が良いのかという議論も必要だと思っている。**

⇒・学校が１つになった方が、維持管理費は減る。

・ただ、統合したからといってその分の予算が回ってくるかというと、そうはいかないと思う。

・しかしながら、もし統合の方向性ということであれば、皆様のご意見を入

れながら、皆様の要望に応えられるような学校づくりや維持に努めたい。

○・小高中学校は、避難から帰還した住民にとって歴史ある地域のシンボルであり、耐震性や築年数といった理由だけで小学校校舎へ統合する素案があったと思うが、見直していただけるのであれば、保護者のみならず、地域の意見も必要になってくると思う。
一個人の意見としては、部活動の面や設備的な面も勘案し、中学校を設備として残してほしいという考えがある。

③ 「放課後の過ごし方」と「習い事」に関する現状把握について

○・市の事業で子どもの「放課後の過ごし方」と「習い事」の調査を実施している。
・このような調査を通じて、想像と実情が異なっていること等、色々と見えてくるものがあるので、それらを一度整理しながら意見を出すことで、「これを何とかしてほしかった」という共通の考えが出てくるのではないかと思う。

④ 地域との連携による子どもの安全について

○・保護者と地域のお年寄りとの間に、子どもの存否についてのギャップがあることを不思議に感じていたが、登下校は送り迎えで、放課後も子どもだけで遊んでいないという状況を聞いて、その原因に気がついた。
・環境的に子どもたちだけでは不安だが、例えば集団で登校する等、子どもたちがいると思ってもらえれば、見守る姿勢もつくと思う。
・安全な人たちの目に見えるところで、子どもの姿が表に出られる環境があっても良いと感じた。

⑤ 放課後の居場所と子どもの成長について

○・児童クラブの先生の話だが、小学校までは児童クラブがあって居場所があるが、中学校に入ったときに居場所がなくなることを懸念されており、そういう場所を作れたら良いと話している。
・また、放課後児童クラブに通っている子は上下の関係性が作れているが、そうでない子は友達同士や上下の関係を作れていないというところを感じ

ており、そこも今後議論が必要と思っている。

⑥ 市の教育環境・取り組み全般への評価について

○・色々課題はあるが、小学校・中学校の教育、部活動についてはできる範囲で十分やっていただいていると思っており、更なる発展という点での意見は難しい。現状のままで十分と感じている。

○・小高ならではと思うのが、放課後の子ども教室であり、地域の物事を取り上げてやってもらっているのが、ありがたいと思っている。
・また、小学校とＮＩＫＯパークで連携してもらっているところも、他にないと感じている。
・総合の「まち探検」では、子どもたちが地域の商店や施設を安全に訪問し、仕事について学べるのも小高ならではと思っている。
地域の和気藹々としたところで育っているというのをとても感じている。
⇒探究に係る部分のご意見と思う。探究したことについてＩＣＴを使用した活動を取り入れていけば、プログラミングとも繋がり、キャリア教育も進んでいくのではないかと感じたところである。

○・英語教育やプログラミング教育のおかげか、子どもが受験で困らない程度の英語力が身についているのではと感じている。
・加えて、市が力を入れている海外研修に参加させていただけるという環境があることや、伝統行事の野馬追で活躍する場が設けられていることから、幅広く学べる学校なのだと卒業を前に改めて感じている。
また、南相馬市は他の市町村と比べて就学支援を受けやすいという環境にあり、そうした面でも教育環境が整った地域であると感じている。